

## 研究の概要

# 研究主題「指導と評価の一体化」

## ～ルーブリックを活用した授業改善～

### Ⅰ 主題設定の理由

学習指導要領改訂の趣旨を実現するための学習評価改善の、基本的な方向性を踏まえると、旧学習指導要領でも度々問われてきた教師の主観のみで評価を行っていないかどうか、明確な根拠に基づいた妥当性のある評価であるか、つまり指導と評価の一体化がなされているかどうかの方が更に重要視されることとなる。

そこで当研究所では渡島各校において、評価の中でも具体的な方法について難しさが挙げられていた「主体的に学習に取り組む態度」について取り上げて研究を行った。

主な評価ツールとして取り上げたのが「OPPA ～One Page Portfolio Assessment～」である。研究を通して、評価ツールとしてのOPPAは非常に有効であることが分かり、OPPAに取り組むことで、授業改善に繋がる「振り返り」を、教師自身も行うことができた。

○ そのまま評価資料になるツールとして「OPPA」は非常に有効であることが分かり、実際に活用することによって、そのデメリットも明確になった。

○ OPPAに取り組むことで、授業改善に繋がる「振り返り」を、教師自身も行うことができた。

● どのような記述がAで、何を書けたらBなのか、評価基準を念頭に置く必要がある。

(R4年度 研究の成果と課題 より)

OPPAに「主体的に学習に取り組んだ」と見取れるキーワードが書かれていたとして、具体的な評価はAなのかBなのかは不明瞭であり、教師が具体的に評価を行う際に迷うことは勿論、その評価について児童生徒が妥当性を見出すことができるとは言い難い。また、学習開始時に単元を貫く問いだけでなく具体的な評価基準が示されていれば、児童生徒が学習後の自分の姿を思い浮かべたり、活動の見通しを持ったりすることによって、より明確な目標をもち、主体的に学習することができるのではないと思われる。

以上のことから、改めて、評価には

- ① 学習目標の達成度を計るための明確な評価基準を設定すること
- ② ①について、児童生徒と共通理解を図ること

が必要であるといえる。

よって、R5年度は、学習目標の達成度を表を用いて測定する評価ツール「ルーブリック」を活用し、その作成方法や継続して活用する手段について調査・研究を行う。

より妥当性・信頼性のある評価を目指すことは、すなわち授業改善を行うということである。児童生徒がより成長できる授業を目指し、ルーブリックを活用して指導と評価の一体化を図り、授業改善を行うことを今年度のテーマとしたい。

OPPAの実践により明らかになった、何を「指導のための評価」とし、何を「記録する評価」とするのかを明確に区別することの重要性についても、改めて念頭に置きたい。R6年度には小学校の教科書改定も迫っている。ルーブリックは、その性質上、一度作ったものがいつでもどこでも使えるわけではない。「研究のために」多大な労力をかけてどこかひと単元のルーブリックを作成・活用するのではなく、普段の授業で作成・活用できるルーブリックについて提案することが大切であると考ええる。

## 2 研究の内容

研究内容1 「指導と評価の一体化」を実現するためのルーブリックを活用した授業改善に関する調査・分析

研究内容2 研究内容1に基づく授業の研究とその改善

## 3 研究の構想

### (1) 研究内容1 「指導と評価の一体化」を実現するためのルーブリックを活用した授業改善に関する調査・分析

文部科学省が提示している「指導と評価の一体化」を実現するための手段の一つとして考えられるルーブリックについて、調査・分析を行う。

- ・ 「指導と評価の一体化」について
- ・ ルーブリックの概念
- ・ ルーブリックの効果的な活用方法

### (2) 研究内容2 研究内容1に基づく授業の研究とその改善

研究内容1を元に所員による授業実践及び改善点等の検証を行い、成果と課題を発信する。また、渡島の実践事例の蓄積・共有を図る。

- ・ 授業実践
- ・ 検証, 協議
- ・ 成果と課題発信(渡島ネットワーク及び研究紀要)
- ・ 渡島の実践事例蓄積と共有(渡島ネットワーク)

### (3) 研究の流れ

